

土地が多くを占め、将来的な利活用の可能性を有する土地であると考えています。

今回の取得により、これらの用地は町有地となったことから、今後においては、町全体のまちづくりの方向性を踏まえつつ、関係者などの意見を聞き取りながら、利活用の方策について検討・協議を進めて行くと考えています。

### 6 移住促進住宅および朝日開拓婦人ホームの公売結果

移住促進住宅および朝日開拓婦人ホームの2件の公売を実施しましたので、結果を報告します。

今回実施した2件の公売については、公売財産の用途や性質は異なるものの、いずれも町有財産として一定の役割を終えた施設と判断し、人口減少社会における住環境の確保と、将来を見据えた土地・建物の有効活用を目的として実施したものです。

はじめに、移住促進住宅については、当該賃貸住宅は、平成22年に旧教職員住宅を全面改修し、町の人口確保対策を目的とした移住促進住宅として整備され、愛称を「ナナカマド」として長年にわたり供用してまいり、この間、町外から20世帯が入居し、当町の移住施策推進の役割を果たしてきた

ものと認識しております。

一方で、改修整備から15年を経過し、移住促進住宅としての役割は一定程度果たしたことに加え、近年の建築費高騰により町民の住宅取得が困難となっている状況を踏まえ、町民の定住ニーズに応える施策へと転換を図ることが適当と判断し、町民を対象に公売を実施したところでございます。

その結果、売却対象とした5戸全てが一旦は売却となりましたが、残念ながら1件は落札後に辞退の申し出があり、契約締結には至りませんでした。

しかしながら、今回の移住促進住宅の公売によつて、戸建て住宅のニーズも把握することができましたので、今後の定住施策の検討にもつながる取り組みであったと感じており、引き続き移住促進と定住支援の両立を図る新たな施策の構築に努めていくと考えてございます。

次に、朝日開拓婦人ホームについてですが、本施設は昭和39年に建設され、地域住民の福祉の増進と生活文化の向上の用に供する拠点として、また地域保育所としても長きにわたり利用されてきましたが、近年は老朽化が著しく、維持管理や今後の利活用について検討が必要な状況となりました。

もあつたものと認識しております。

しかしながら、近隣住民の皆さんが抱かれている思いは、自然や景観を大切にし、将来の世代により良い環境を引き継ぎたいというものであり、その根底にある考え方は、町が目指す将来像と本質的に同じものであると考えています。町としては、同じ目標を共有する立場として、対話を重ね、相互理解を深めながら、建設的な協議を進めていくことが重要であると考えています。

こうした考えのもと、レ・コードの森自治会と夕日ヶ丘自治会を対象とした説明会を本年2月10日に開催しました。

この度の説明会は、建設予定地内における病院および特別養護老人ホーム施設配置計画について説明するためのもので、これまでに寄せられた近隣住民の皆さんのご意見を踏まえ、町と徳洲会が協議を重ねた結果として、建設予定地を隣接するパークゴルフ場敷地の一部を活用する形で拡張し、病院施設本体を住宅地から約90m距離をとるなど、現時点で可能な限りご意見を反映させた内容として示したものであります。

出席した地域住民の方々には31名と限られた中での開催であったため、説明会で配布した資料を各世

また、本施設の敷地は、面積が1992.63㎡と一定の規模があり、戸建ておよび集合住宅の建築のほか、店舗や事務所など各種事業活動の拠点にも活用できるものと判断し、公売を実施した結果、売却に至ったものです。

人口減少が進行する中であつては、町外から人を呼び込む「移住施策」と、町内に長く住み続けていただくための「定住施策」の双方と、町有財産の有効活用を併せて一体的に進めていくことが重要であると考えています。

町としましては、今後においても、まちづくりの方向性を踏まえながら、町有財産の適切な活用と、移住・定住施策の充実に取り組んで行く所存ですので、ご理解をお願いいたします。

### 7 AIオンデマンドバス実証事業の実施状況

町は、これまで定時定路線方式により運行してきた地域巡回バスについて、利用者の利便性向上と運行効率の改善を目的として、昨年10月15日から、利用者が事前に予約を行い、自宅前などで乗降する予約型公共交通であるデマンドバス方式への転換を実証事業として開始しました。

本実証事業では、複数の予約情報に配付し、改めてご意見などを募ることとしております。

説明会では、景観に対する思いや、自治会内の環境整備などについてのご意見も寄せられましたので、これらの声を受け止め、対応の検討を加えるとともに、今後も計画内容について随時、説明会を開催して行くと考えています。

なお、日高徳洲会病院移転改築に係る整備事業は、今後、設計や許認可など事務事業が中心となる段階に移行していくことから、所管の常任委員会において適宜報告・説明を行うとともに、各工程の大きな節目において行政報告を行っていくこととします。

### 9 新冠インターチェンジの開通と記念祝賀会の開催結果

「新冠インターチェンジの開通と記念祝賀会の開催結果」について報告します。

平成30年4月21日に厚賀インターチェンジが開通して以来、日高自動車道の当町への延伸と新たなインターチェンジの整備は、多くの町民が待ち望み、開通に寄せる期待は大きいものであります。インターチェンジの開通は、札幌圏を中心とする道央圏のほか、主要な圏域とのアクセス時間の短縮にとどまらず、産業面において

報を基にAIが最適な運行ルートを生成するAI運行システムを導入し、最短経路での運行が可能となる「AIオンデマンドバス」とすることで、徒歩移動の短縮、屋外での待ち時間の解消、さらには乗車時間の短縮など、利用者の身体的負担の軽減が図られており、利用者から一定の評価を得ているところでです。

実証事業を開始した昨年10月15日から本年2月14日までの4カ月間における累計利用者数は3438人で、一日平均利用者数は33・7人となっており、定時定路線方式で運行していたときの一日平均利用者数33・49人とほぼ同数となっております。

今後、予約手続きへの理解が進み、加えて制度周知を図ることで、更なる利用者数の増加が見込まれるものと考えています。

一方で、本事業の実施にあつては、予約システムの構築において当初の想定を上回る経費を要したこと、燃料費や修繕費などの経費削減効果を差し引いてもなお、次年度当初予算額が増額になるなど、財政面における課題も生じております。

AIオンデマンドバス事業は、人口減少や高齢化が進行する中において、限られた資源で地域公共も物流効率の向上による生産性の改善や企業立地の可能性を広げるとともに、生活面においては医療圏の拡大や、災害時等における物資輸送ルートの確保など、地域全体に資する基盤整備であると認識しています。

新冠インターチェンジは2月28日に開通日を迎え、同日、節目の行事として室蘭開発建設部による開通式および通り初め式が執り行われました。その後、会場をレ・コード館として、高規格道路日高自動車道早期建設促進期成会による記念祝賀会が開催されました。

式典には、国土交通大臣をはじめ、国会議員、北海道知事などの来賓ほか、地権者の皆さんや町民、関係機関の方々にご出席をいただきました。

祝賀会では、郷土芸能の新冠判官太鼓保存会による演奏が披露されるなど、終始和やかな雰囲気の中で執り行われ、来賓の皆さまからは、インターチェンジの開通を今後のまちづくりに生かしていくことへの期待が寄せられました。

祝賀会終了後の午後3時には、新冠インターチェンジが正式に供用開始となり、一般車両の通行が開始されております。

インターチェンジの開通が、今後どのような人流や物流の変化を

交通を維持していくための有効な交通体系の一つと考えており、今後においては、実証事業の結果を踏まえ、利用実態や費用対効果を検証しながら、利便性と経済性の両立を図り、持続可能な地域公共交通体系の構築に向けた検討を継続して行く方針でございます。

### 8 日高徳洲会病院移転改築に係る住民説明会の実施結果

日高徳洲会病院が当町西泊津地区へ移転し、新たに病院建設に着手することは、町の医療・福祉体制の充実を図り、全ての町民が将来にわたり安心して暮らし続けることのできる環境づくりにつながるものとして、多くの町民から期待を寄せられている事業であります。

一方で、建設予定地の近隣にお住まいの町民の皆さんにとつては、これまで親しんできた景観や生活環境が変化することへの不安や戸惑いがあることを、町として重く受け止めた上で、事業を推進する考えでございます。

近隣住民の皆さんを対象とした説明会は、昨年3回実施したところであり、説明会においては、町が示す地域医療の必要性や公共性、さらには将来像の説明が必ずしも十分に受け止められていない場面